

農業総合センター農業試験場試験研究課題評価票（概要）

<事後評価>

凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った 1：成果が得られなかった

課題名	1. 「ロイヤル」モモのマルドリ栽培法の開発				
総合評価	5： 1人	4： 5人	3： 人	2： 人	1： 人
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・天候不順な年や収穫前の連続降雨による糖度やロイヤル率の低下を抑制できる岡山ブランドの確立に欠かせない重要な栽培技術と評価できる。 ・応用技術としての部分マルチ技術は省力・低コストであり普及性が高いので、現地試験を継続して欲しい。 ・行政機関等からの支援を得て本技術を早急に普及させることで、高品質な清水白桃の生産による産地育成と活性化への貢献が期待できる。 ・マルドリ栽培では生育時期別施肥量と灌水量の基準が作成されているので、ロイヤル規格の最上位を目指して試験研究を継続して欲しい。 ・降雨時にどの程度、地温、地湿度（土壌中の水分分布）、ECなどの変動についてマルドリ栽培法と慣行栽培とを比較した説明が欲しかった。 				

課題名	2. マスカットの無核化技術の開発				
総合評価	5： 1人	4： 4人	3： 1人	2： 人	1： 人
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・種のある（有核）マスカット・オブ・アレキサンドリア（以下、マスカットとする）と品質に差がない種無し（無核）マスカットを栽培する技術を確立したことは注目に値し、マスカットの消費拡大に大きく貢献する技術であると評価できる。 ・樹勢が弱いマスカットの果実を無核化すると生じる問題は、無核化した果実の肥大原因、肥大条件及び肥大方法が明らかにされていることから、現場レベルでの今後の改善・改良を待ちたい。 ・本研究のなかで、従来から問題となっている果皮褐変症状の原因が解明されたことは、防止対策確立のため重要である。シャインマスカットへの応用のためにも、防止対策確立に向けて研究継続を望む。 ・普及（実用化）を強く意識した試験研究がなされており、普及段階にまで達している高い技術の完成度は評価できる。 ・マスカット以外に新規課題としてシャインマスカットも検討されており、販売面・消費面での競合を、どのように巧みに回避するかを検討する必要がある。 				

課題名	3. 直売所への農産物の安定出荷システムの策定				
総合評価	5： 人	4： 3人	3： 3人	2： 人	1： 人
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・実地踏査したデータを解析して直売所の実態把握を行ったことで、直売所の特徴作りの重要性が明瞭になった。 ・直売所で販売する農産物の売れ残りを減らすシステムが構築できたことは成果である。 ・普及指導センターと連携し、直売所間の需給調節システムのモデルケースを示すとともに、他の直売所が勉強できる場を設定するなどして、今後システムが普及・定着することを期待する。 ・直売所間の需給調節システムの構築は全国的に共通する課題である。今後とも解析手法やシステム化に関して積極的に県外とも情報交換を行って欲しい。 ・県庁所管課、生産団体、直売所関係者が一体となって取り組み、直売所間でのネットワーク作り等を通して安定した品揃えシステムの構築に向けた情報共有化（例えば、ホームページなどで各直売所で販売する地場野菜の特色等を紹介する）も可能ではないか。 				

< 中間評価 >

凡例 5 : 優先的に継続することが適当 4 : 継続することが適当 3 : 計画変更して継続することが適当 2 : 継続の必要性が低い 1 : 中止すべきである

課題名	1. 胚培養を主体とした育苗法によるナス用台木新品種の育成				
総合評価	5 : 3人	4 : 3人	3 : 人	2 : 人	1 : 人
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山県特産の「千両ナス」ブランドを維持するには、地域に適した青枯病抵抗性優良台木の育成は欠かせない。進捗状況からみて新品種が育成できる可能性は高く、必要かつ有益な研究であり継続実施が必要である。 ・独法研究機関等で開発された有望台木も積極的に活用し、早期に生産者に普及できる台木が育成されることを期待する。 ・大量に台木を低コストで供給できる技術やシステムを開発し、育成した台木を早急に普及させることが必要と思われる。 				

課題名	2. 遺伝子診断による病害虫防除				
総合評価	5 : 人	4 : 6人	3 : 人	2 : 人	1 : 人
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・精度高くかつ迅速な病害虫診断技術は産地の維持・発展に不可欠であり、農業試験場の重要な使命の一つとして、果たす役割は大きい。今後とも遺伝子診断可能な品目や病害虫の種類を増加させるとともに、診断技術の高度化が図られることを期待する。 ・遺伝子診断には多量のデータ蓄積が重要であり、また同塩基配列が不詳な場合は、従前からの同定が必須なので、両者を使いこなせる人材の持続的な育成が望まれる。 ・他研究室より研究費が多いが、試薬などが高価なことから、妥当である。 				

課題名	3. 病害虫・生育診断と対策指導				
総合評価	5 : 人	4 : 6人	3 : 人	2 : 人	1 : 人
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・産地の維持・発展には、農作物に生じた障害の原因を迅速に診断し、診断結果に基づいた確かな対策指導は必要不可欠であり、診断技術を高度化し、生産者に貢献することを今後も期待するものである。しかし、本課題は農業試験場の本来的・経常的業務であり、県行政の一環として直接県民に接し情報を提供するという一面と県下における作物の生育状況、病害虫発生状況（新規病害虫の発生動向調査を含む）という重要な側面を持つが、行政対応だけの話であるならば敢えて研究課題に挙げるのは違和感がある。 ・近年の異常気象の下、これまで殆ど問題とならなかつた病虫害や生理障害の発生が憂慮される状況に至っており、異常気象下における県下の作物・植物の異常生育状況のモニター及びその原因究明と対策の立案であるなら極めて重要かつ喫緊の課題なので、今後そのような位置づけと対応を望みたい。 ・効率的で迅速な障害原因の究明と対策立案システムの構築となれば、研究の領域に含まれるので、診断と対策指導を行った情報をデータベース化し、今後の県内における病害虫・生育診断に広く活用できるシステムとして発展させてはどうか。 ・年間1,000件の診断を1.94人の人員と30万円の研究費で実施するのは無理ではないか。研究予算をもう少し増加してもよいのではないか。 				

< 事前評価 >

凡例 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

課題名	1. 発酵粗飼料に対応した水稲の品種の選定と低コスト栽培法の確立				
総合評価	5： 2人	4： 4人	3： 人	2： 人	1： 人
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自給粗飼料の供給による水田の高度利用や自給率向上の観点から、発酵粗飼料用水稲の省力・低コスト・多収栽培法の確立は重要度の高い喫緊の課題であり、成果達成の可能性は高い。本課題の成否は資材費をいかに抑制できるかが鍵であり、主食用の米の栽培にも応用できるので、大きなインパクトを与える可能性もある。 ・ 県内の農家に栽培技術が蓄積されている主食用晩生品種「アケボノ」等に着目した点は評価できる。この研究により飼料米の栽培で問題となる漏生籾による混種問題が回避されることで、水田が有効利用され、岡山ブランド畜産物の生産への貢献も期待できる。さらに、主食品種を用いることで食料危機に際しては、直接の消費も可能である等メリットが大きい。 ・ 開発される技術を上手く機能させるには、耕畜連携を見据えた技術・経営との連携が不可欠で、県の南北間での発酵粗飼料と堆肥の流通システムの構築、それに関連する情報システムの構築も必要である。 				

課題名	2. 生育障害要因の解決によるビール大麦の高品質安定生産技術の確立				
総合評価	5： 1人	4： 5人	3： 人	2： 人	1： 人
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水田の高度利用のため、米以外の有利作目として導入すれば、農家のメリットは大きいことから、実需ニーズに応えるための高品質で短期収穫可能な品種を用いた栽培技術は確立すべき喫緊の課題と感じる。開発される成果は食品工業原料への利用に留まらず多方面での利用が期待される。 ・ 技術開発だけでなく、農業経営面での導入可能性も検討する必要がある。 ・ 品種ミハルゴールドに特化することが妥当か否か（本品種が、ビール原料、商品作物として重要である点は理解できるが）という本質的な疑問が残る。 				

課題名	3. 加温ブドウの省エネルギー化を図る変温管理技術の開発				
総合評価	5： 4人	4： 2人	3： 人	2： 人	1： 人
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燃油価格の不安定な現状における生産費節減による経済効果が大きいだけでなく、温室効果ガス（二酸化炭素）削減のための環境対応技術としても優れている。 ・ 変温管理により省エネルギー化を図ることは、加温ブドウの高品質安定生産に貢献するだけでなく、開発される成果は他の主要農産物の生産にも重要な意味を持つと考えられる。他県に先駆けての早急な技術開発が切望される。 				

課題名	4．ブランド化を目指した「シャインマスカット」の高品質生産技術の確立				
総合評価	5： 4人	4： 2人	3： 人	2： 人	1： 人
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に注目されているぶどう新品種「シャインマスカット」は、産地間競争が激化する可能性が高く、県内でもシャインマスカットへの期待は大きい。 ・岡山ブランドの評価をより高めるには、本県ならではの高品質な「シャインマスカット」の栽培技術の確立が重要であり、早急に優先して技術開発すべき課題である。 ・種なしマスカットやピオーネなど、他のブドウとの消費面での棲み分けや販売ルートなど、本県のブドウ生産全体が発展するようなマーケティング戦略を策定し、その中での「シャインマスカット」の位置付け、販売戦略を検討する必要がある。 ・「岡山のシャインマスカット」のブランドを確立し、品質の良さを宣伝することも重要である。 				

課題名	5．ナスの新台幣系統の栽培技術の確立				
総合評価	5： 2人	4： 4人	3： 人	2： 人	1： 人
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山県及び野菜茶業研究所で育成した土壌病害抵抗性の新台幣の栽培方法の確立と現地試験であり、岡山の「千両ナス」ブランドの維持発展には欠かせない技術開発である。 ・有望な台木系統が既に見いだされており、新台幣の栽培方法を早急に確立することで実用化の可能性は高く、スムーズに普及させるために必要な技術開発であり実施が望まれる。 				

課題名	6．スイートピーの落蕾多発条件の解明と落蕾抑制剤実用技術の確立				
総合評価	5： 1人	4： 5人	3： 人	2： 人	1： 人
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山ブランドであるスイートピーの生産安定や発展のためには、ぜひ早急に落蕾抑制技術の開発を実施し、現場からの要望に応える必要がある。また、開発される成果は全国のスイートピー生産者の経営安定に貢献すると考えられる。 ・落蕾抑制活性を示す新規剤を予備試験で見出しており実現可能性は高いと考える。これに限らず落蕾多発原因の解明に重点的に取り組む必要がある。 				

課題名	7. 消費ニーズによる岡山米の生産・販売方向				
総合評価	5 : 1人	4 : 3人	3 : 2人	2 : 人	1 : 人
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山県産米の生産・販売拡大は緊急性があり、県政の政策的なイニシアティブは欠かせないと考えます。また、県産米の実態調査が近年行われていないので、実施する価値はある。 ・県行政・全農と緊密に連携して取り組みを行い、この成果により岡山の米のブランド化が図られることを期待する。 ・岡山米のブランド化には、消費者ニーズを的確に把握し、ニーズに合致し、かつ他県産米とも差別化できる特色ある品種を選定し、一定の品質基準と栽培基準によって栽培された相当量の米を用いた新商品の開発が必要である。しかし、有望な新品種が見込めない状況にあっては、如何にして（手持ち）品種のブランド化を図るかという点が重要であると考えます。 ・設問の仕方等によっては消費者ニーズの把握が実態と異なることも懸念されるが、消費者ニーズを的確に反映したデータを用いた解析による最適コンセプトを抽出することは重要である。しかし、それだけで岡山産米の生産・販売の方向性は見えてこない可能性が高い。米の流通業者（仲買、卸、産地商人など）へのアンケート調査等による情報収集を行い県産米の多様な流通ルートを解明し、これらに基づいて総合的な県産米販売に関わるマーケティング戦略を立案する必要がある。 ・研究予算が少ない。 				

課題名	8. 中山間地域に適した野菜新品種の育成・選定と品種特性を發揮させる栽培技術確立				
総合評価	5 : 3人	4 : 3人	3 : 人	2 : 人	1 : 人
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域の農業を活性化し、地域を豊かにするためには、立地条件を活かし得る農産物をブランド化するための取り組みが必要であり、農業振興上重要な課題である。 ・本課題で取り組む中山間地域に適した耐暑性で多収の四季成り性イチゴ品種の育成やジャンボピーマンの抵抗性台木の選定は、現場からの要望課題であり、四季成り性イチゴで有望系統が見つかっているなど実現可能性は高く、早期の技術確立が大いに期待できる。 ・中山間地域におけるブランド野菜の開発推進に向けて、各農家の保存する歴史的な品種と栽培技術の収集を強く要望したい。 ・研究予算が少ない。 				